

令和元年度「全国高等学校教育改革研究協議会

選択協議題A「地域との連携・協働による新しい高等学校づくり」

京都市立高校におけるコミュニティ・スクールの 取組と防災・景観を題材とした地域との連携に ついて

～塔南高等学校と京都工学院高校の事例～

京都市教育委員会 学校指導課
副主任指導主事 谷口 衛

京都市立高校について

京都市立高校9校

- 伏見工業高校(定)
- 西京高校(全・定)・附属中学校
- 銅駝美術工芸高校
- 京都堀川音楽高校
- 京都工学院高校
- 堀川高校
- 日吉ヶ丘高校
- 紫野高校
- 塔南高校

市内には、他に
 国立1, 府立17, 私立26



1. コミュニティ・スクールの取組

☆京都市立塔南高等学校

学 科：普通科・教育みらい科

※教育みらい科は平成19年度から設置

生徒数：718名（男子349名，女子369名）

普通科 598名

教育みらい科 120名

教育目標

- 知性を尊び個性を伸長する教育を通して，高い学力と豊かな人間性を身につけさせ，社会で活躍・貢献できる有為な人材を育成する

(1) コミュニティ・スクール発足までの経過

平成27年6月

「新しい普通科系高校の創設に関する基本方針」

工業高校2校(洛陽・伏見)を再編・統合し、
「京都工学院高校」として平成28年4月に開校
→洛陽工業高校跡地への移転・新校創設

基本コンセプト

生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校
地域に貢献し地域とともに発展する学校
生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校

平成27年7月

「京都市立新設高校創設プロジェクト」設置

平成28年9月に「まとめ」を作成

最高目標……**社会に貢献する生徒の育成**

- 学校・家庭・地域がともに学校運営について協議し、行動するコミュニティスクールの導入
- 専門のコーディネーターを核とする教育支援組織（サポートボード）を校内に設置

校内では、

「塔南高校の在り方構想委員会」(平成27・28年度)
「新校構想委員会」(平成29年度以降)を軸に検討を進めてきた。

- 「総合的な学習の時間」の充実を含むカリキュラムや指導体制の見直し
- 移転後を見据え、地域連携や大学・企業との連携も進める

平成29年度の連携例

- 唐橋地区清掃活動に参加（洛陽工業高校から引き継ぎ）
- 地域の中学校での「ふれあいトーク」に参加
- 企業理念や働くうえでの思いを知る（企業との連携）
- 知の世界の面白さ、奥深さに触れる（大学・研究機関との連携）

(2) 研究指定

平成30年度 文部科学省研究指定

学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業

◇研究課題

「社会に貢献する生徒の育成」を目指した
教育支援組織(サポートボード)としての
学校運営協議会の在り方について

指定を受け、取組をさらに推進

「研究協議会」を年間3回実施

第1回(7月10日)

夏から秋の期間中、特色ある取組の視察を実施(任意)
高校の教育活動への理解を深めていただいた

第2回(11月27日)

教職員とのグループ協議も行った

第3回(3月13日)

生徒から、課題探究発表及びキャリアフィールドワーク
の報告を行った

「塔南高校学校運営協議会の方向性」をまとめた

地域連携事業の実施例

- 「放課後まなび教室」学習サポーター
- 京都市南区一斉清掃ボランティア(年間4回)
- 祥栄小学校及び吉祥院小学校防災キャンプボランティア
- 吉祥院小学校3年生の地域探究(総合的な学習の時間)受け入れ
- 京都市吉祥院図書館との連携イベント

夏休み科学実験教室, 絵本の読み聞かせ, 美術作品展, 書道パフォーマンス, 図書委員おすすめの本紹介等

(3) 塔南高校コミュニティ・スクールの活動

塔南高校学校運営協議会「発足式」(平成31年3月13日)



京都市教育委員会からの「指定書」受領の様子

「京都新聞」
平成31年3月14日朝刊

コミュニティ・スクール初導入

塔南高 住民が運営参加 職場体験など学び支援

地域住民が学校の運営に関わる制度「コミュニティ・スクール(CS)」を、京都市南区の塔南高が13日、京都府内の公立高校では初めて導入した。地元の自治会長や小・中学校長、企業の代表者が理事となり、今後、各組織が職場体験や地域活動の受け入れ先になるなどして生徒の学びを支える。

CSは、住民や保護者が参加する学校運営協議会を学校に設置する仕組み。地域と協力を共有し、多様な活動を展開できるように。京都市内では大半の公立小・中学校が導入しているが、高校は連携先としては大学が中心で、関係地域も広範なことからまだ導入が進んでいない。

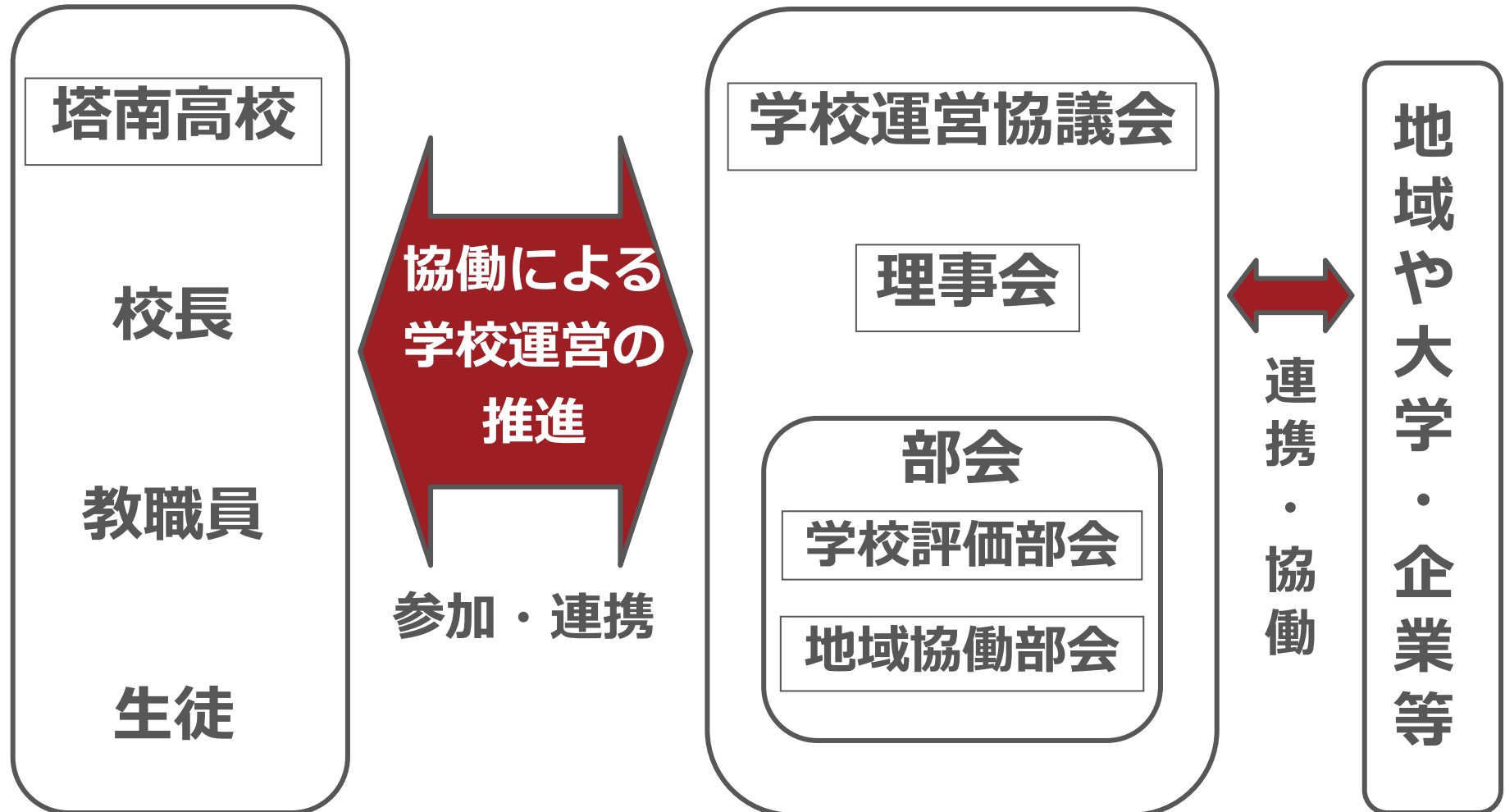
塔南高には、教員養成専門学科があり、地元の小学校で実習をするなど地域連携を進めていることから、4年後の校舎移転に伴う新たな学校づくりを見据えて導入を決めた。

13日に関係者が集まり、学校運営協議会を設立した。今後、学校と地域連携のあり方を考えたり、教育活動をチェックしたりする。一部の活動には生徒も参加させ、地域社会を担う主体者であるという意識を育ててもらう。理事長の天野広一(唐園学区自治連会長)は「生徒が多くなると吸収する場を作っていくたい」と述べた。

府教育委員会は4月に設置規則を施行してCSを府立高にも広める予定で、「地域に開かれた学校づくりを進めたい」としている。

(大西賢子)

コミュニティ・スクール実施体制



理事会の予定(年3回)

第1回(4月24日)

学校運営方針及び学校運営協議会について

※グループ協議に生徒代表(4名)も参加

第2回(11月第1週予定)

中間総括をうけての学校運営計画修正承認

第3回(3月下旬予定)

年間総括及び自己評価等報告・承認

次年度運営方針の承認

この他に、学校評価部会・地域連携部会を
それぞれ実施

第1回理事会(4月24日)

- 学校運営方針や協議会の活動について
- 生徒発表(昨年度の取組報告や今後行いたいことの提案)
- グループ協議

「高校生が地域と連携して取り組む活動のアイデアを考える」

出された意見

- ・みんなが集いたくなる美しい公園づくり
- ・中学生の学びのサポート
- ・防災キャンプや防災訓練への積極的な参加
- ・地域で育ち、地域で働くことの大切さを理解し、
学びと社会とのつながりを実感できるように
- ・ホスピタルアートの例

● グループ意見交換

「高校生が地域と連携して行う、実現可能な取組について考える」

※4月の理事会でのグループ協議で出てきた御意見をもとに、今年度実際に実現できそうな取組を、担当理事・教職員・生徒代表で検討

◎主な意見

- ・防災リーダー育成・・・実際の発災時に、高校生にも補助してほしい。災害時のSNSを活用したネットワークづくりを高校生が考える
- ・高校生のころから社会を知っておくことは大切。「多様性の理解」も一つのキーワード
- ・持続可能性があるかどうかが大切
- ・事前学習をしっかりとしておくべき

(4) 今年度の重点課題

① 企業，大学・研究所，地域との一層の連携に向けた実施体制の構築

⇒「高等学校コンソーシアム京都」との連携

2年生の冬に行う「キャリアについて考える」を実施するに当たっての、

訪問先(大学・研究所等)への協力依頼、

連絡・調整、事前・事後指導

……のサポート体制を構築する

※現在、実施に向けての体制づくりを行っている段階

② 「防災ボランティアリーダー」の継続的な育成，地域と連携した取組の推進

⇒ 防災ボランティアリーダー研修の実施

今年度は，熊本県に数名を派遣

- ・ 校内の防災体験学習の運営や，避難訓練の事前学習への参画
- ・ 地域の小学校等の防災教育への参画

継続的に育成し，「地域の防災拠点」となる新校での取組につなげる

(5) 取り組んでみて

学校運営協議会は、「学校の応援団」

・生徒

多様な人々とのかかわりの中で、実感を伴った学び
ボランティア活動参加者が増加
社会や地域への関心が高まる

・教職員

「地域(←広く)とともにある学校」の視点を常にもち、
様々な方との関わりの中での発見を取組に活かす

(6)まとめ ～新校への接続を見据えながら～

地域と連携したさまざまな取組を通じて、

- ◇生徒
 - ・多様性への理解
 - ・人と人との結びつきの大切さ・有難さを知る
 - ・実社会で活躍する方々の「志」を実感
 - ・主体性やチャレンジ精神を養う
 - ・社会に貢献したいという意欲を高める
- ◇学校
 - ・学校だけでは創り出せない学びの形
 - ・京都が持つ「力」の豊かさを活かす

2. 防災・景観を題材とした地域との連携

☆京都市立京都工学院高等学校

※京都市立洛陽工業と伏見工業の両高校を再編統合し平成28年度に開校

学 科：フロンティア理数科（その他専門学科）
プロジェクト工学科（工業科）

生徒数：709名（男子621名，女子88名）

フロンティア理数科 175名

プロジェクト工学科 534名

教育目標

- 豊かな人間性 確かな技術を身に 付け，京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する。

(1) 地域連携の土壌

もともと工業高校では地域連携に力を入れていた
 専門の学習が地域の課題解決につながる
 →地域にも喜ばれ、生徒への教育効果も高い

	洛陽工業高校	伏見工業高校
専門	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートセンシング技術を用いた監視コーン(地元の小学校へ寄贈) ・トイレ人感センサーと来場者記録装置(地元の高齢者施設へ寄贈) ・鉄板ラック作成 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電を使った地域活性化 ・保育所の遊具修理やおもちゃ作り ・地域の防災マップづくり ・東高瀬川改修計画 など
専門以外	<ul style="list-style-type: none"> ・唐橋地区清掃活動に参加 ・唐橋地区消防分団のシャツターペイント など 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃ボランティア ・ふかくさ100円商店街への参加 など

(2) 防災工学

- 「防災工学」…まちづくり分野の学校設定科目
- 3年生に2単位を設定
- 「予防」「対応」「復興」の3つの視点で地域防災を見つめる
- 6～7人の班に分かれて、班ごとにどの視点から地域の防災課題に取り組むかを決定
- 周辺地域をフィールドワークしながら、課題点を洗い出し、改善点や対応策を考える。

【昨年度の各班のテーマ】

- 避難札の提案と作製
- 災害時のけが対応マニュアルの作成
- 土嚢袋を用いたかまど作り
- 住民の防災意識がどのようにすれば高まるか

【地域との連携】

- 「深草学区自主防災会」から協力要請あり
（伏見工業高校時代からのつながり）
- フィールドワークへの対応やアンケート等の協力、
発表会への参加等に協力いただいている。

(3) 河川改修3D・VRで地域住民に説明会

- 京都工学院高校の近くを流れる七瀬川について、現在治水安全度向上を目的に京都市で遊水地整備事業が進められている
- 京都市建設局河川整備課より「住民説明会で、遊水地全体のイメージを分かりやすく紹介したいので、バーチャル・リアリティを用いた3D・VRをつくってほしい」と依頼

〔伏見工業高校時代から、地域の環境や安全について取り組んでおり、その関係で、行政（建設局、区役所）とも、長年つながりがある〕

【3D・VRの取組】

- 土木事業の完成イメージを景観も含めて3次元で構築できることは非常に大きなメリット
- 伏見工業時代から取組をスタートし、今年で7年目
- 専門の実習や部活動(シビルクラブ)で取り組んでいる
- (株)フォーラムエイトの実施する3D・VRシミュレーションコンテストでも毎年賞をいただいている実績がある

H30 七瀬川改修計画のVRデータの活用…審査員特別賞・プロジェクト賞

H29 大規模地震における緊急災害対策VRの提案…審査員特別賞・地域づくり賞

H28 後世に残すわが母校, 伏見工業高校…準グランプリ 優秀賞

H27 東高瀬川改修シミュレーション2015…エッセンス賞

H26 東高瀬川改修シミュレーション…準グランプリ 優秀賞

【七瀬川遊水地整備事業住民説明会（平成30年4月5日）】

- 平成31年度の事業着工に向けた説明会
- 地域のお住まいの方対象（約30名参加）
- 事業概要の説明および，京都工学院の生徒による3D VRを用いた事業計画の説明

◎説明会での感想

- 完成予想図が視覚的に把握できて理解が深まった
- 長年の地域課題を住民と高校生が共有できた
- 前向きな意見交換が生まれた
- 住民代表だと同世代（高齢化）で偏った意見になりがちだが，生徒や教員の方から気づかされる意見や若者から勇気づけられることが取組の中でたくさんあった
- 地域に社会貢献を掲げる工学系の高校があることは心強い

(4) 地域連携の取組を通して

【意義】

- そもそも、工業は「人々の生活を豊かにするため」にもものづくり・まちづくりに取り組んでいる
- つまり、自分たちの学んでいることが、いかに人の役に立っているかを実感することは、工業の意義を実感し、これから工業人として社会で活躍していくベースとなる
- その意味で、専門性の高い内容で地域貢献に取り組む意味合いは大きい

【成果】

- 住民と行政の橋渡しができた
- 地域学習が地域連携へとつながった
- 地域の課題が他人事ではなくなった
- 社会（住民・行政・大学等）との接点が増えた
- 専門学習の目的が明確となった
- ボランティア活動にも積極的に関わられるようになった
- 自己肯定感が高まり、高校生活が前向きになった
- 公務員が進路選択の一つとなった

【課題】

- 新カリキュラムにおいても継続した指導体制
- 住民ニーズやその期待と教育活動，学校行事の調整

【展望】

- まだまだ周辺地域には貢献できる課題があり，地域と学校の両方において，より得るものとなる取組を検討
- 学校と地域と行政の連携に，企業や大学との連携を加えた形の地域貢献を検討